

苦しさ乗り越え、感動を！

～協力して困難を乗り越える力をつけるために～

福山市立駅家小学校 対象学年(5年)

体験活動の種類 **自然**

体験活動場所・宿泊場所 国立吉備青少年自然の家

【学校紹介】

- 本校は、学校教育目標を「確かな学力をつけ豊かな心を育み たくましく生きる力の育成」、めざす子供像を「えがおの明るい子」「きたえた体力のある子」「やりきる学力のある子」とし、自尊感情を育て、確かな学力を身につけ、夢と誇りを持ち社会に貢献できる児童の育成に取り組んでいる。

本年度から研究主題を「思考力・判断力・表現力の育成 ～理解・評価しながら読み、自分の考えを書く力を育てる国語科授業のあり方～」とし、国語科を中心として研究を進めている。

校区は、広島県東部、福山市の北部に位置する駅家町のほぼ中心を学区としている。かつては、豊かな田園に囲まれてもいたが、昭和 50 年2月福山市へ合併、日本鋼管福山製鉄所の誘致とともに、福山の住宅地として変容し、大型店が次々とできるなど都市化現象が進んでいる。そのため児童増に伴う学区編成替えが2度あり、現在に至っている。家庭・地域とも学校への関心が深く協力的であり、子供たちは明るく育っている。

本校の児童は、いろいろな活動に素直に取り組むことができる。しかし、自ら考えて活動し、継続する力をつけていくことに大きな課題がある。

こうした児童の実態から、自己有用感や自尊感情の定着に向けて積極的な体験活動の実施を進めたり、児童の「アイデンティティ・自律・挑戦」を進めるため縦割り班の活動、多彩な学校行事を推進したりすることで、自主自律した児童の育成に努めている。5年生では、リーダーの育成を意識した諸活動への取組を中心に活動している。



- 校長名:秀坂 眞樹
- 児童数(学級数):714名(25学級 特別支援学級を含む)
- 所在地:福山市駅家町大字倉光 100
- 電話番号:084-976-0048
- URL:<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-ekiya/>

【体験活動のねらい】

- 長期の集団宿泊体験を通して、集団生活でのルールや協力する大切さを学ばせる。
- すべての活動を通して、仲間への信頼を深めることで、自分の良さに気付かせる。
- 児童相互の関わり合いを深め、互いのことをより深く理解し、身の回りの諸問題を解決していく中で、困難に打ち勝つ気力や喜びを実感させる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施 時間数	教育課程上の 位置づけ	実施場所	指導者
7月	事前活動 ○事前アンケートの実施 ○実行委員会を中心とした、ねらいについての話し合い ○施設での生活の過ごし方の確認 ○役割分担	3	学級活動	学校	担任
8月	集団宿泊活動(3泊4日) ○カッター活動 ○火起こし・ツイストケーキ作り ○キャンプファイヤー ○ペンダントづくり ○焼き板づくり	24	学校行事	国立吉備青少年自然の家	担任 施設関係者
9・10月	○事後アンケートの実施 ○自主・自立「るみ子の夏休み」1-(3) ○体験活動で付けた力を作文に表す。 ○体験活動でつけた力の確認・まとめ	1 1 1	学級活動 道徳の時間 学級活動	学校 学校 学校	担任 担任 担任
10月	○学習発表会練習 児童のリーダーを中心に学習発表会の活動を進める。 ○追跡アンケートの実施	6	学級活動	学校	担任
3学期	○体験活動を含め、1年間の総合的な学習の時間で学んだことの発表	4	学級活動	学校	担任

【体験活動の概要】

○カッター活動

困難に打ち勝つ気力や仲間とともにやりきった喜びを味わわせることをねらいとして、カッター活動を3日連続で行った。児童たちは、初めは楽しい様子であったが、時間が経つにつれて、体は疲れ、指にはたこができ始める。より速く進むためにはどうするとよいかを考えるため、毎晩振り返りを行い、次のような意見を出し合った。

- ・掛け声を変えること。
- ・櫂を水につけるタイミングを合わせること。
- ・櫂の角度を考えること。
- ・力が強い人が艇の内側に座るとよいこと。

これらを、次の日のねらいとして活動を行った。

日が経つにつれて、カッター活動の振り返りの時間で、普段大勢の前で発言をしない児童が、



話し合いの中心になっている姿を見つけることができた。苦難を共にすることで、心を許せる仲間づくりにつながった。また、自己有用感や自尊感情の高揚も感じられた。

その結果、艇が進む速さは次第に速くなり、最終日には全艇が目標タイムを上回る記録を残すことができた。脱落者は一人もおらず、全員で困難を乗り越えることができた。目標を達成した時には、他のチームに対して「おめでとう」「ありがとう」という言葉が自然に飛び交うなど、共に喜ぶ自信にあふれる姿を見ることができた。

○火起こし・ツイストケーキ作り

先人の知恵に触れるとともに、仲間と協力することの大切さを味わわせることをねらいとして、火起こし・ツイストケーキ作りを行った。

火起こし・ツイストケーキの作り方をもとに、自分たちで試行錯誤しながら作業することができた。それぞれの役割を分担し、責任をもって火をつけたり、ツイストケーキの生地をつくったり、片付けを含め、時間を意識して行動することができた。



【体験活動の効果を高める事後学習】

○野外活動で得た達成感や感動を次につなげるため、野外活動のテーマソング「ふるさと」を、学習発表会での合唱曲にした。また、自己有用感や自尊感情を高め、生かすために、実行委員を中心に、自主的な活動に取り組み、学習発表会のめあてを考え、積極的に練習を行った。

○行事の際には、実行委員を立ち上げ、児童が中心になって活動する機会を多く設け、「アイデンティティ・自律・挑戦」につながるよう、自分たちで考え行動し、自分たちで何かを作り上げるという経験をさせてきた。



【交流先や施設との連携】

○「行事をこなす活動」から「行事を通して子供の変容が確実に生かせることができる活動」にするために、振り返りの時間のもちかたや各プログラムの内容等について、なぜ実施するかを施設側と充分協議し、その後プログラム相談を密に行った。

○目標達成の為の各プログラムの効果的な進め方や注意事項を事前に教えていただいた。

【評価の工夫】

○児童が活動の振り返りをしおりに書く際に「アイデンティティや自律, 挑戦」を振り返らせるため、「良かったこと・感じたこと, 次回工夫すること, 明日みんなで頑張ること」の3つの観点を与えた。活動の目的を明確に持たせ, 達成感・充実感を実感させるため, 振り返りの観点を明確にし, 班ごとの振り返りで生かすことで, 児童は翌日の活動目標を考えやすくなり, 教員も翌日のねらいを達成させるべく支援・指導に生かすことができた。また, 友達の良さを伝え合う「きらきらメッセージ」を交換することで, 互いの良さを認め合い, 自己有用感や自尊感情を高めることができた。

【安全面の配慮事項】

- 施設設備を事前訪問することで, 危険箇所の把握を行った。
- 緊急時の連絡方法, 受け入れ医療機関の確認と依頼を行った。
- 参加児童の健康状況把握のために, 事前の健康調査・アレルギー調査を実施した。
- プログラムの精選, 引率者による打ち合わせ(内容確認・役割分担)を行った。
- 熱中症対策としての水分補給時間の確保とペットボトルを準備した。

【体験活動の成果と課題】

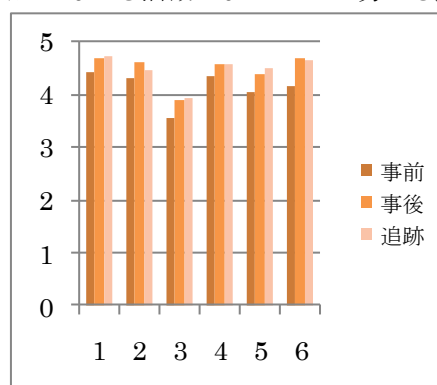
○成果

児童を対象に行ったアンケート結果から, 宿泊体験活動の事前・追跡の結果を比較すると, ねらいとした項目の値が上昇し, 継続して力となっていることが分かった。

質問項目1・4・6から, 他者理解が深まり, 縦割り班の活動において, 低学年の立場になって考えたり, 行動したり, 支援できるなど自己有用感や自尊感情の高まりがうかがえる。

「嫌がらずよく働く」児童が増え, 様々な活動でその意味を理解し, 意欲的に活動する姿が多くみえるようになった。本校のミッションである夢・誇り・貢献につながる活動となったことが分かる。

番号	質問項目	事前	事後	追跡
1	人のために何かをしてあげるのが好きだ。	4.42	4.70	4.73
2	自分勝手なわがままを言わない。	4.32	4.62	4.47
3	多くの人に好かれている。	3.54	3.89	3.92
4	自分のことが大好きである。	4.33	4.57	4.59
5	嫌がらずよく働く	4.06	4.38	4.48
6	小さな失敗を恐れない	4.15	4.68	4.65



○課題

今年度は体験活動と事後学習を充分結びつけ成果を生かしきることが難しかった。年間を通してどういう子供を育てるのか, そのための手段としての体験活動の計画を位置づけ, 取組の後すぐ次の活動につながるように諸計画を推進することで, 本校のめざす子供像の実現にせまることができると考えられる。